

前回審査会（平成 23 年 9 月 12 日）における指摘事項及びその対応

番号	指 摘 事 項	対 応
1	<p>ばい煙の排出に係る大気質の短期予測については、新川の対岸に立地する高層マンションへの影響を予測する必要があると考える。</p> <p>短期予測は、高濃度発生の可能性のあるダウンドラフト時等の条件について、プルーム式等を用いた拡散シミュレーションを行うとしているが、想定している予測手法を説明されたい。</p>	<p>事業者を確認したところ、事業実施区域南側の新川を挟んで、高層マンションが複数立地しており、高層マンションまでの距離は 150m～400m、建物階数は最大で 21 階（高さは約 70m）となっており、指摘を踏まえ、短期予測にあたっては、これらの高層マンション前面の高さ方向別の予測を行うとのことでした。</p> <p>なお、この際に使用する予測式は、プルーム式を基本に有効煙突高や拡散幅の補正を行う式を用いるとのことでした。</p>
2	<p>低周波音については、類似事例による定性的予測を行うとしているが、想定している予測手法について説明されたい。</p>	<p>事業者を確認したところ、類似事例による定性予測については、以下の内容で行うとのことでした。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 類似施設の選定（北名古屋ごみ焼却工場と規模等が同等の清掃工場（鳴海工場等）） 2 類似施設の建屋屋外における低周波音の状況把握 3 類似施設と北名古屋ごみ焼却工場の状況を比較することによる定性的な予測
3	<p>動物、植物及び生態系については、四季調査により、事業実施区域及び周囲 200m 程度の範囲の状況を把握することが必要である。</p>	<p>事業者を確認したところ、指摘を踏まえ、別紙の内容で、事業実施区域及び周囲の動物、植物及び生態系の現地調査を行うとのことでした。</p>

表 1 (1) 調査、予測及び評価の手法（動物）

項 目		調査、予測及び評価の手法	
環境要素の区分	影響要因の区分		
重要な種及び注目すべき生息地	<p><工事の実施> 建設機械の稼働等</p> <p>掘削、盛土等の土工</p> <p><施設の存在> 地形の改変並びに施設の存在</p>	調査すべき情報	<p>(1) 脊椎動物、昆虫類その他主な動物に係る動物相の状況</p> <p>(2) 動物の重要な種の分布、生息の状況及び生息環境の状況</p> <p>(3) 注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である動物の種の生息の状況及び生息環境の状況</p> <p>(4) 代償措置を検討する場合における対象となる動物の特性や現生息地及び代償措置実施場所の環境条件、類似事例等の状況</p>
		調査の基本的な手法	<p>文献、既存資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理・解析</p> <p><現地調査></p> <ul style="list-style-type: none"> ・哺乳類：目撃法、フィールドサイン法、トラップ法 ・鳥類：任意観察法、ラインセンサス法 (猛禽類については、必要に応じて「猛禽類保護の進め方」に基づく調査を行う) ・昆虫類：任意採集法、ベイトトラップ法、ライトトラップ法 ・両生類、は虫類：任意観察法 ・魚類：任意採集法（投網、タモ網） ・底生動物：任意採集法（タモ網等） ・クモ類：任意採集法 ・貝類：任意採集法
		調査地域	事業実施区域並びに動物の生息の特性を踏まえて、重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる周辺地域として、事業実施区域及びその周囲約200mの範囲を基本とし、現地調査の状況を考慮した範囲
		調査地点	調査地域のうち、環境影響を予測及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点又は経路
		調査期間等	<p><現地調査></p> <ul style="list-style-type: none"> ・哺乳類：春季、夏季、秋季、冬季に各1回 ・鳥類：春季、繁殖期、夏季、秋季、冬季に各1回 ・昆虫類：早春季、春季、初夏、夏季、秋季に各1回 ・両生類、は虫類：早春季、春季、夏季、秋季に各1回 ・魚類：春季、夏季、秋季に各1回 ・底生動物：早春季、夏季、冬季に各1回 ・クモ類：夏季、秋季、冬季に各1回 ・貝類：初夏季、秋季に各1回
		予測の基本的な手法	重要な種及び注目すべき生息地について、分布又は生息環境の改変の程度を踏まえた事例の引用又は事例の解析による定性的予測
		予測地域	調査地域のうち、動物の生息の特性を踏まえて重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる事業実施区域及びその周囲約200mの範囲

表 1 (2) 調査、予測及び評価の手法（動物）

項 目		調査、予測及び評価の手法	
環境要素の区分	影響要因の区分		
重要な種及び注目すべき生息地 (続き)	<工事の実施> 建設機械の稼働等 掘削、盛土等の土工 <施設の存在> 地形の改変並びに施設の存在 (続き)	予測対象時期等	動物の生息の特性を踏まえて重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を的確に把握できる時期
		評価の手法	工事の実施及び施設の存在による動物の重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響が、事業者の実行可能な範囲内で行える限り回避され、又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかを検討する。

表2 調査、予測及び評価の手法（植物）

項 目		調査、予測及び評価の手法	
環境要素の区分	影響要因の区分		
重要な種及び群落	<p><工事の実施> 掘削、盛土等の土工</p> <p><施設の存在> 地形の改変並びに施設の存在</p>	調査すべき情報	<p>(1) 維管束植物に関する植物相及び植生の状況</p> <p>(2) 重要な種及び群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況</p> <p>(3) 特に重要で、なおかつ大きな影響を受けるおそれがある種が存在する場合におけるその種の集団構造及び繁殖特性</p> <p>(4) 代償措置を検討する場合における対象となる植物の特性、現生育地及び代償措置実施場所の環境条件、類似事例等の状況</p>
		調査の基本的な手法	<p>文献、既存資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理・解析</p> <p><現地調査></p> <ul style="list-style-type: none"> ・植物相：任意観察調査 ・植生：現地踏査、コドラート調査
		調査地域	<p>対象事業実施区域並びに植物の生育及び植生の特性を踏まえて、重要な種及び群落に係る直接的及び間接的影響を受けるおそれがあると認められる周辺地域として、事業実施区域及びその周囲約200mの範囲を基本とし、現地調査の状況を考慮した範囲</p>
		調査地点	<p>調査地域のうち、環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点又は経路</p>
		調査期間等	<p><現地調査></p> <p>早春季、春季、夏季、秋季に各1回</p>
		予測の基本的な手法	<p>重要な種及び重要な群落について、分布又は生育環境の改変の把握した上で、事例の引用又は事例の解析による定性的予測</p>
		予測地域	<p>調査地域のうち、植物の生育及び植生の特性を踏まえて重要な種及び重要な群落に係る直接的及び間接的環境影響を受けるおそれがあると認められる事業実施区域及びその周囲約200mの範囲</p>
		予測対象時期等	<p>植物の生育及び植生の特性を踏まえて重要な種及び重要な群落に係る直接的及び間接的環境影響を的確に把握できる時期</p>
		評価の手法	<p>工事の実施及び施設の存在による植物の重要な種及び注目すべき生育地に係る環境影響が、事業者の実行可能な範囲内でできる限り回避され、又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかを検討する。</p>

表3 調査、予測及び評価の手法（生態系）

項 目		調査、予測及び評価の手法	
環境要素の区分	影響要因の区分		
地域を特徴付ける生態系	<p><工事の実施> 建設機械の稼働等</p> <p>掘削、盛土等の土工</p>	調査すべき情報	<p>(1) 動植物その他の自然環境に係る概況</p> <p>(2) 複数の注目種等の生態、他の動植物との関係又は生息環境若しくは生育環境の状況</p> <p>(3) 代償措置を検討する場合における注目される動植物の種又は生物群集の特性、現生息・生育地及び代償措置実施場所の環境条件、類似事例等の状況</p>
		調査の基本的な手法	文献その他の資料及び現地調査による定性的、定量的情報の収集並びに当該情報の整理・解析
	<p><施設の存在> 地形の改変並びに施設の存在</p>	調査地域	動植物その他の自然環境の特性及び注目種等の特性を踏まえて、注目種(上位性・典型性・特殊性の視点から生態系を特徴づける生物種)等に係る環境が環境影響を受けるおそれがあると認められる事業実施区域及びその周囲約200mの範囲を基本とし、現地調査の状況を考慮した範囲
		調査地点	調査地域のうち、環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点又は経路を選定
		調査期間等	動植物の調査時期に準じた時期
		予測の基本的な手法	注目種(上位性・典型性・特殊性の視点から生態系を特徴づける生物種)等の分布、生息又は生育環境の改変の程度を把握した上で、事例の引用又は事例の解析による定性的予測
		予測地域	調査地域のうち、動植物その他の自然環境の特性及び注目種等の特性を踏まえて注目種等に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる事業実施区域及びその周囲約200mの範囲
		予測対象時期等	動植物その他の自然環境の特性及び注目種等の特性を踏まえて注目種等に係る環境影響を的確に把握できる時期
	評価の手法	工事の実施及び施設の存在による地域を特徴づける生態系の注目種等に係る環境影響が、事業者の実行可能な範囲内でできる限り回避され、又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかを検討する。	